

令和7年度第2回花巻市行政評価委員会（しごと部会）会議録

1 開催日時

令和7年8月25日（月）午後3時30分～午後5時00分

2 開催場所

花巻市役所新館3階 会議室

3 出席者

(1) 委員 5名

影山一男委員長（学校法人富士大学経済学部 副学長・部会長）、小田島浩徳委員（花巻農業協同組合常務理事）、細川祥委員（社会福祉法人花巻市社会福祉協議会常務理事）、阿部久美子委員（一般社団法人花巻観光協会副会長）、黒須修一委員（一般社団法人花巻青年会議所理事長）

(2) 説明者（施策担当部長、施策主管課長、施策関係課長及び課長補佐）5名

伊藤昌俊（商工観光部長）、似内泉（商工労政課長）佐藤充（大迫総合支所地域振興課長）、八重樫祐加（石鳥谷総合支所地域振興課長）、及川昌規（東和総合支所地域振興課長補佐）

(3) 事務局（施策評価及び事務事業評価担当）3名

佐藤亜美（財政課経営財務係主事）、八重樫尚孝（秘書政策課企画調整係長）、小原紘（秘書政策課企画調整係主査）

4 議事録

（市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「魅力ある商業地域の形成」について評価を実施。）

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

≪施策主管課説明後≫

（小田島浩徳委員）新規出店が5件ということだが、これは旧花巻市内か。

（似内商工労政課長）昨年度のまちなか創業支援補助金の対象になった方々は、旧花巻市内の5件だったが、補助金の要綱上、花巻だけが使える補助金ではなくて、大迫、石鳥谷、東和でも活用できる。例えば令和4年度は石鳥谷で飲食店の開業、令和5年度は東和で鍼灸院の開業があった。今年度については、大迫の方でこの補助金を使いたいと相談を受けている案件もあり、旧花巻市内だけではなく広く展開している。

(小田島浩徳委員) その5件の方々は、元々花巻市民の方か。

(似内商工労政課長) 出身までは把握していなかったが、記憶が正しければ1人は花巻にゆかりのない市外の方だったと思う。

(影山一男部会長) 他にご質問ご意見いかがか。

(阿部久美子委員) 今の質問と関連して、新規出店の目標値が5件で進むと、年々増えていくわけだが、その方々が引き続きやっているのかどうか、追跡はしていないのか。

(似内商工労政課長) 開業後に、中小企業診断士の方に入っただき、2回、経営指導をいただいている。今回の5件の方はもちろん継続している。

(阿部久美子委員) どんどん増えていけば良いが、これまでの新規出店の方が継続しているのかどうかについては把握できていると良い。

(似内商工労政課長) 創業前に事業者の事業計画書に助言をいただくイノベーション会議を開催している。構成員には金融機関、起業化支援センターのコーディネーター、商工会議所などに入っただき、5年間の事業計画についてちゃんと運営できるかどうかを申請前の段階で確認する。創業後には中小企業診断士の指導を2回、受けることができるようになっているため、立ち上がりのサポートはできている。ただ創業してから長くなると、店をやめる可能性が全くないとは言えない。

(阿部久美子委員) 成果報告の書類を提出することなどはないのか。

(似内商工労政課長) 補助金に関してはない。経営診断をもって確認している。

(影山一男部会長) 他にご質問いかがか。

(細川祥委員) 評価シートの1のところにコロナ禍以降の対策としてPayPayキャンペーンという話がでてきていて、後ろの構成する事務事業一覧の最後にその事業があるのだが、施策への貢献度が「－」になっているのは正しいのか。また事務事業評価シートが手元にない。

(似内商工労政課長) 事務局から送付された書類について把握していないが、事務事業評価シートは作成している。「中小企業持続支援事業」という事業だが、これは当初予算で要求していたものではなく、物価高騰対策として補正予算で計上したもの。事務局からは成果指標を設定していないため「－」で良いということであ

った。

(細川祥委員) 補正だからということか。ルールで管理しているのであれば良い。一般的に支払った分に対してバックがあるから、市内で買おう、というのは特に機械に強い若者は積極的な感じがあって、お年寄りの方は関心があまり強くない印象。だとしてもこの事業は施策にかなり貢献しているのではないかと思った。

(似内商工労政課長) PayPay キャンペーンをするときには必ずその使い方の講習会を開催しているが、高齢の方も来られており、回数を重ねてきて、ご利用される方は若い人に限らず増えてきている。

(伊藤商工観光部長) この施策評価シートの施策を構成する事務事業一覧の No. 060 に 1 億 4892 万 1000 円経費がかかっていると書いているが、第 11 回の PayPay のキャンペーンは 22 日間行ったが、このときに PayPay を使って決済が行なわれた総額は 8 億円ほど。そういった効果が出ている。ちなみに全 11 回を足すと合計 78 億の決済があった。

(影山一男部会長) 他にご質問等いかがか。

(黒須修一委員) 今のところについて、結構大事なことなのではないかと思う。これまで 11 回も行っている以上は何かしら評価をしっかりとしていくべきと考える。記載がなければ 8 億円の効果があったことも分からないので、シートの中で記載した方が良いのではないか。事業として掲載している以上は、直接貢献度は表示できなくても、良い影響があったことはシートに記載しても良いのではないか。また、施策評価シートの総合的な評価の今後の方向性の中で、上町商店街振興組合と話し合いを行う、とあるが何を指すのか。

(似内商工労政課長) 上町の通りにあるアーケードは、商店街が所有者であるが、昨年度に市民の方から、建物側に立っている支柱に穴が開いているので確認した方が良いのではないかと、という内容のお手紙を市にいただいたため、商店街と話し合い、支柱の応急処置をすることになった。修繕にはかなりのお金がかかるため、当初は 3 年間の修繕計画の申し出があったのだが、商店街が修繕を依頼した事業者から安全性について指摘があったため、50 本の支柱に対して 1 年間で応急処置ができるように市が支援をした。アーケードを設計した事業者から、現在のアーケードの安全性に関してお墨付きがいただけなかったため、安全性を確認するための点検が必要であったが、アーケードの点検ができる事業者は少なく、また金額もかなりかかるため、昨年 1 年間、商店街の皆様と話し合いを続けなが

ら、どうすれば安全を確保できるか、場合によっては撤去も視野に入れながら話し合いを続けていた。なお今年度、点検することとして地域で話がまとまり、市も予算措置をしたが、中間報告の段階では、想定していたよりはしっかりしたアーケードであったため、まずは一安心している。最終的な結果は12月ぐらいに出るため、それをもって地域の皆さんとまた相談したい。

(黒須修一委員) 意図としては理解できるが、シートには「方向性を決定していただくための支援」とあり、表現として分かりにくい。

(似内商工労政課長) 対応策を講じるための資料がない、という状況だったため、今回はあくまでも調査ということで令和7年度に支援をさせていただいている。

(黒須修一委員) そのように記載した方が良いと思う。

(伊藤商工観光部長) 補足だが、令和6年度に細い方の支柱について、下の方が錆びて穴が開いていて危ない、と申し上げたが、危ないのではないかと、という推察で、その時点で絶対危険だという判断をしたのではなく、直した方が良いだろうという判断で応急処置をしたもの。本当に危険かどうかは正確に判断できないために今年度にもその調査を行っている。

(影山一男部会長) 事業説明資料に、財源の内訳とあり、一般財源、国費、地方債などと書かれているが、「その他」という項目は具体的には何を指すのか。

(伊藤商工観光部長) 一般的には寄付金、あるいは基金からの繰入金を指す。

(影山一男部会長) 基金というのはいわば我々でいえば貯金のことで、それを切り崩していくということ。了解した。次に、施策評価シートで、日常的に買い物を市内で行う市民の割合、これはアンケート調査から、具体的な数字が取り上げられているのだが、市内で購入する人が前年度と比べると、0.4%減少したとある。特に20代と40代で下がったということが原因の一つとあるが、なぜ下がったのか、その要因についてどう考えているか。また関連して、まちづくり市民アンケートの結果において、日常的に買い物をする場所について問う設問があるが、回答としては花巻市内が多く、市外だと北上が多い。北上と花巻は、個人的には同じ市内のようなものだと思うが、そこは花巻と北上を合わせるとかなりの割合になる。別の設問で、市内で買い物をしている人が休日も含めて満足しているのか、について見ると、大迫や小山田など市街地から離れた地域では不満が結構高いという状況もある。主題に戻るが、20代40代が減少した主な原因は何か。もともと20代は日常的な買い物を市街地でするのだろうか。

(似内商工労政課長) アンケート結果の数値からしか読み取れないので、正直なところ、なぜ下がったかについて明確に説明できる根拠はない。1つ考えられるのは、先ほど部会長もおっしゃったように、立地の関係で、北上市境の方であれば花巻市内で買い物するよりは北上市内が近い、という場合もあるだろうし、また花巻市と北上市はコロナ禍以降求人倍率が非常に高く、昔のように仕事に定着せず、給与によって職場を変える傾向もあるため、花巻市から北上市に通っている方がいれば、仕事の帰りに北上市で買い物することは十分考えられる。目標値よりは下がっているものの、9割の方が市内で買い物しているという状況については、日常生活に係る買い物には不便はないのではと思っている。ただ休日も含めての満足度については、日用品以外の嗜好品的な部分を考えると、市街地から離れれば離れるほど、満足度が低くなるのはしょうがないと感じている。なかなかそこを補完することはできないと感じている。

(伊藤商工観光部長) 課長が申し上げた通り、このアンケート結果だけで要因を図るのはなかなか難しいのだが、このアンケートは令和7年4月以降に行ったもので、昨年1月にイトーヨーカドーが閉店になったことも一因ではないかと考えている。特に20代の方々にとっては化粧品や服などが購入できる場所であったことも確かだが、要因として確証を持ってない。また大迫や東和について、大迫は盛岡市が近いという感覚を持っている方もいるようだし、東和は北上が近い箇所もあるため、元々の地域性もあるかと思う。

(影山一男部会長) 上位の政策の目指す姿が「地域特性に合った商工業が活発になっている」、これに紐づく施策が「魅力ある商業地域の形成」ということで、花巻、石鳥谷、大迫、東和の地域ごとで考えているため、アンケート結果については年代、地域ごとで分析することで対策がはっきりするのではないかと。評価はBなので、施策としてはきちんとされているだろうと思うが、Aにするためには、新規出店に関する成果はほぼ目標値に近いので、日常での買い物を市内で行う割合について改善が必要。日常的に食料品等の買い物が困難な地域、例えば東和地域や大迫地域、また高齢者の割合が高い地域だと思われるため、課題として書くときには具体的な地域や世代も含めて書かれていると、地域ごとの対策が分かりやすいのではないかと考える。

花巻市の商工会議所や色んなところがインターネットを使って発信していると思うが、花巻市で新しく新規開業した人や、元から花巻市で店舗を開業している方たちの販売を促進するためのネットの活用など、商工会議所では取り組んでい

ないのだろうか。以前ホームページを拝見したところ、たしか英語、タイ語、中国語など5カ国語で表示できるようになっていた。

(伊藤商工観光部長) 多言語化しているのは、観光協会の方ではないかと思う。観光協会のホームページの多言語化については、市が補助金を出している。また商工会議所では、コロナ禍で実店舗で食事ができないようなときに、テイクアウトをするお店を紹介するサイトを作っていたかというところも言えない。また移動スーパーの件だが、元イトーヨーカドーからとくし丸が出発していたのだが、そのときに聞いた話では、利用者の属性としては地域というよりは年齢。イトーヨーカドーがすぐそこにある四日町のお年寄りもとくし丸を使っていたとのこと。地域も関係するかもしれないが、やはり高齢者の方、例えば運転免許を返納したような方に向けて対策が必要なのだろうと思う。

(影山一男部会長) イトーヨーカドーの後に新しく出来たのはロピアか。

(伊藤商工観光部長) その通り。

(影山一男部会長) あそこは食品中心なのか。

(伊藤商工観光部長) 食料品がメインとなっている。

(影山一男部会長) では他のスーパーとは少し違うものか。

(伊藤商工観光部長) 現在はマイヤがとくし丸を運行している。

≪質疑終了に伴い、伊藤商工観光部長、似内商工労政課長、佐藤大迫総合支所地域振興課長、八重樫石鳥谷総合支所地域振興課長、及川東和総合支所地域振興課長補佐は退席≫

(2) 委員会の評価結果の集約【施策評価検証シートの整理】

①「◎前年度評価の振り返り」において前年度の評価⇒見直しが機能しているか

(影山一男部会長) 内容としてはきちんと書かれている。前年度からの今後の方向性

①から⑤について、反映状況もそれぞれ①から⑤と対応しているので、機能している。

(阿部久美子委員) あまり指摘するところはないのでは。

(黒須修一委員) これは意見だが、取り組み内容としてイベントに主眼を置きすぎているのではと感じている。例えば創業支援、もちろん説明会を行って補助を出したことや、イベントを実施した、というのは分かるのだが、それらは一過性のものである。既存の小さい小売業や、頑張っている事業者にもう少し目を当てること自体が必要ではないか。本来は既存事業の振興が前提で、加えて新しいところを増やしていこうという話なのに、新しいところだけやっている印象。0を1にしているのはすごくいいことだが気になる。

(阿部久美子委員) この評価シート自体は完璧だが、市内にコンビニ、ドラッグストア、スーパーが乱立していて、地元企業が疲弊しているのは間違いない。この視点でこの評価シートを評価することはできないが、例えばPayPayキャンペーンをやっている、それが地元資本ではない大手資本に流れている印象があり、使えるところを絞ることはできないのだろうか。

(八重樫企画調整係長) PayPayのキャンペーンの対象店舗は、すべて花巻に本社があるところのみが参加している。

(黒須修一委員) 紫波町は違うのか。

(八重樫企画調整係長) 紫波町や北上市など他の市町村とは異なり、本市では市内に本社のある店舗に限定している。

(黒須修一委員) 既存の事業者がどうなのか、が見えていると良い。シートの冒頭、課題の2つ目に、地場事業者の事業継続支援とあり、これについては記載が必要ではないか。

(小田島浩徳委員) 課題として、既存事業者への支援が必要、という形で認識しているということなのだろうか。

(黒須修一委員) イベントなどで集める、ということは分かるが、出店しているのは元気な店。イベントに集めることで継続支援となっているのか、もともと勢いがあるところが集まっているのか、というのは分からない。シート自体は素晴らしいと思う。

(影山一男部会長) 施策の目指す姿の実現に向けた主な取り組みの中で、PayPayに関して、これは花巻市の特徴として、対象店舗を市内事業者としているということについてはもっと強調してほしいし、先ほど申し上げたように、PayPayでの決済が全体で8億円であることや、これまで11回やって78億円も決済されたとい

うことなど、シートへの記載内容で、具体的な数字をあげて強調してもらえると良いかもしれない。

(黒須修一委員) 継続支援をしなければならない方が、PayPay キャンペーンの対象店舗に入っているかどうかは分からないが、PayPay のキャンペーンをやっているということに対しては、書いた方が良い。

(影山一男部会長) 経済効果について記載が必要、ということだと思う。地域の小売店が減少していることへの対策はやっているだろうが、そこが見えてこない。新しいことは見えてくるが、既存の地元の小売店への対応がよく見えない。

(黒須修一委員) 事業者という書き方なのでいろんな業種があると思う。

(影山一男部会長) この項目については整理して作成する。

②「3 成果指標の達成状況」の「達成状況に関する背景・要因」の分析が的確に行われているか

(影山一男部会長) 日常で市内の買い物をする人の割合について、まちづくり市民アンケートの結果を利用して背景と要因を書いているため、的確であると思う。

③「4 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか

(影山一男部会長) 商店街の方の高齢化が進んで、事業継承はうまくいかないのだろうか。そこに新たな事業者を呼び込むということで、5件の新規出店があり、うまくいっているようではあるが、これまで経営していた地元の事業者の事業継承はどうなのだろうか。

(黒須修一委員) そもそも車文化の中で、商店街でどうやって買い物をするのか、というところは気になる。お祭りで歩くことが多いと思うので、イベントを実施するとか、それにより歩く文化などを目指したいというのは見て取れる。事業継承するとなっても、日常的にそこに人が来づらい。自分たちですら買い物行くときは車で行けるなら行ってしまふ。大迫でも東和でも商店街は車が停めづらく、ある程度歩かなければならないと思うと、これが弊害なのかもしれない。

(小原秘書政策課主査) 事業継承について言えば、例えば元々呉服屋だったところがそのまま事業継承されるかということ、そもそもニーズがなくなったから、続けられなくなったからやめた、ということもあり、事業継承せず、店舗として活用されていない状態が商店街の中で起こっていると言える。また、別の業態が入ってくるときにはリノベーションまちづくりという観点が入ってくる。店舗を持って

いるオーナーが、自分ではもうやれないから、誰かにやってほしいという現状ももちろんあるので、事業継承だけでなく、空き店舗の活用という観点も関わってくる。

(影山一男部会長) 市としてはそういう現状はもう認識したうえで施策を実施しているということか。この項目については総じて的確だと判断できる。

④「5 施策の総合的な評価」が的確に行われているか

(影山一男部会長) 施策も評価もきちんとされているが、商店街が元気な姿になっているように思えず、何かが物足りないと思う。

(黒須修一委員) 自分は青年会議所という団体に活動しており、自分が入会した2018年と比べると、上町でのイベントなどは増えている気がする。青年会議所だけではなく、例えば家守舎であったり、大迫だと大迫みらい会議ができたり活動が活発になっており、少しずつ潜在意識自体が変わってきていることは確かだと思う。ただ、活動の結果、例えば出店に結びつくなどは時間がかかると思う。実際にこの場所で商売として継続できるかが分からないと難しい。例えば家賃が15万円かかる事業者に対して補助をして、1～2年間だけは家賃5万円になるような補助をするなどしない限りは、店として定着していかない気がする。PayPayにしても一過性があるもので、今よりもっと支援することは行政では難しい気がする。そのため一つ一つの施策を着実に取り組んでいき、例えば公共空間活用の話であれば、社会実験を通して申請の方法を簡単にしてもらい、効率化や簡単さ、手の取りやすさなどをPRするなど、どんどん良くする要素はいっぱいあると思う。今現在やっていること自体は悪いことではないので評価が難しい。

(阿部久美子委員) できていると評価すると、もうこれでいい、ということになってしまうのではないかとも思う。

(影山一男部会長) 方向性のところについて、例えば①の今後の方向性で、まちなかへの新たな事業者の呼び込みを図るということは良いと思うが、こういうメリットがあるから呼び込みができるようになる、などの記載が必要ではないか。また②の上町のアーケードの修繕又は撤去など今後の方向性を決定してもらうための支援を講じる、と書いてあるが、何か目に見えるような記載が欲しい。また③から⑤には商店街の活性化とあるが、これはどの地域でも言われる言葉。この施策は地域の特性に沿った中心商店街の活性化のため、東和はアートの街、石鳥谷は小さな百貨店ぷらっとや南部杜氏の里、大迫は大迫宿場町、そういう特性を踏ま

えているが、出てくる目標は活性化に集約されてしまっている。地域活性化はある意味当たり前の課題なので、それをどのように地域に根ざし、具体化していくのが、見えると良い。

(黒須修一委員) おそらく5年後も同じ内容になると思う。最初の方で言うべきだったかもしれないが、施策評価シートの冒頭に課題が記載されているが、総合評価に出てきていないものがある。例えば課題の2つ目、事業継続支援が必要です、とあるが、最後の評価には出てきていない。また先ほどのPayPayの成果に関して、やったことが記載されていないのは寂しい。新規創業と継続支援は一緒にやった方が良い。0から1にすることも大事だが、せつかく1になったところと、今100のところを書かない理由はないと思う。0から1に執着すると見栄えも良くないと思う。

(八重樫企画調整係長) 意見として書いていただいて良い。

(影山一男部会長) 総合的な施策の評価に関して、的確に行われている。しかし、既存の事業者の方への支援策も例示して書いてほしい、ということ意見をとして書かせていただく。

⑤シート記載内容全般について

(影山一男部会長) PayPay キャンペーン実施に係る経済効果の話もあったため、明記した方が良いのではないかと思う。

(以上)